

日本におけるシェアサイクルの実現に向けての方策について No.1

# NAGOYAクリエイティブ戦略： まちづくりのなかで、シェアサイクルを考える

文

国立大学法人 名古屋工業大学大学院  
社会工学専攻 建築・デザイン分野 准教授

伊藤 孝紀

一般社団法人 日本シェアサイクル協会  
事務局：TEL 03-3663-6281 URL <http://www.gia-jsca.net>



## NAGOYA 創造協議会による三蔵通の構想

2015年に、名古屋駅地区と栄ミナミ地区を中心としたまちづくり関係者が有志で集まり「NAGOYA創造協議会」を立ち上げました。名古屋は、2027年の「リニア中央新幹線の開通」を控え、まちづくりへの機運が高まっていますが、名古屋駅地区と栄地区が競うようにメディアでは報道されます。名古屋市全体の魅力向上を考えるなら、名古屋駅地区と栄ミナミ地区をつなげ、相互に魅力を高める戦略を考えるべきです。また、「機能価値」から「体験価値」を産み出すクリエイティブ産業に加え、それらを牽引するクリエイティブな人材が集積できる環境づくりも必要です。

そこで、「NAGOYA創造協議会」では、名古屋駅地区と栄ミナミ地区が連携し、クリエイティブ人材の誘致やクリエイティブ産業の誘導をすることで、創造的な名古屋都心部とすべく、都市構造（再構築）のデザイン提案をおこなっています。そして、リーディングプロジェクトとして、名古屋駅地区と栄ミナミ地区を東西へとつなぐ「三蔵通」を対象に、「クリエイティブ軸」という名古屋に新しい都心軸を構築するために、様々な活動の実践をおこなっています。

「三蔵通」をみていくと、江戸時代に尾張藩が3つの蔵を所有していたことが名前の由来のようです。桜通や若宮大通と比べると車道の複線化がなく、車道幅に対して歩道幅が広くヒューマン スケールであり、曲がることのない真っ直ぐな形状をしています。また、個性化という意味では未だ空白地帯といえます。

名古屋市都心部には、大規模開発が可能なエリア

も多いですが、一方では、その周辺エリアは既存の建物が集積したままの状態に。既存の建物をリノベーションすることで、起業したい若者（スタートアップ企業）が集い共同で働けるコワーキングや、ライフスタイルを共有して住むシェアハウスなど、新しい価値を生み出すことができます。若者を中心に、就労者や住民が増えれば、お洒落なカフェやレストラン、クリエイティブな人材が欲する店舗が自ずと集積し、三蔵通り全体のエリアリノベーションへと発展するでしょう。そういったクリエイティブなまちづくりの戦略の一つとして、シェアサイクルを位置づけていくことが大切です。

## クリばこ：立体駐車場のリノベーション

クリエイティブの拠点となるべく、2018年3月には、三蔵通の名古屋駅南地区に位置する立体駐車場の一部をリノベーションし、「クリエイティブサロン：クリばこ」を開設しました。立体駐車場のリノベーションは、全国初の試み。実際に、職種や年齢を越えたコミュニティの形成やエリアの活性化を目的に、ミーティングや展覧会の場として積極的に活用されています。街を歩きたくても、駐車場ばかりでは楽しくありません。ガラス張りの空間による活動や賑わいのにじみ出しが、通りの雰囲気をも明るくし、新たな交流を生み出すのです。こういったスペースの前面歩道にこそ、シェアサイクルのステーションがあれば、多くの方々が集い、活用することでしょう。既に実施に向けて計画が進んでいます。



立体駐車場のリノベーション



クリエイティブサロン：クリばこ

## 栄ミナミに実現した伊勢町通パークレット

クリエイティブな思考や活動は、公共空間の利活用でも実践的な事例を見ることができます。例えば、皆さんが日常の往来で利用する「道路空間」でも、オープンカフェや展示、マルシェなど新しい試みが取り組まれています。道路空間は、自動車や自転車などが通過するだけの機能ではなく、コミュニティを育み、賑わいを生み出すパブリックスペースであるべきという考え方に大きく変わりつつあるのです。

海外では、「パークレット (Parklet)」と呼ばれる道路空間の車道上のパーキングスペースに、デッキテラスやパラソル、屋外テラス席のキットを設置して、飲食や団欒のスペースやガーデニング、遊具的な設えなど、思い通りの使い方を実現しています。2010年に米国サンフランシスコでは、道路空間を、あたかも公園のように使おうという「Pavement to Parks」というプロジェクトから生まれた仕組みです。パークレットの設置までのマニュアルや、実際に使われているシーンなどもWEBで公開されています。

2017年10月12日から、栄ミナミ地区の南伊勢町通りでは、「ISEMACHI PARKLET (イセマチ パークレット)」をおこないました。全国初となる車道上のパーキンメーター（時間制限駐車区間）に設置した社会実験を、栄まちづくり会社と名古屋市、私の研究室が連携して実現させました。社会実験の見所となる3つのポイントを記します。

一つ目は、車道の積極的な活用です。サンフランシスコの事例のように、歩道はいっさい使わず、車道上のパーキングメーターのみを活用することで、歩道空間を広く確保しているのです。さらに、駐輪スペースを併設することで、歩道上にある大量の駐輪を車道へ誘導でき、歩行目的のみの十二分な空間を確保できます。その確保した空間に、シェアサイクルを実施するなど可能性が広がるのです。

二つ目は、パークレットと交通整備を同時におこなっている点です。車道上を走る自転車が安全な通行を促し、走りやすいよう「ナビライン」を設置し、駐輪スペースは車道上からアクセスできるようにしました。曖昧になりがちな自転車通行についての解決策も模索しているのです。

三つ目は、まちづくりのデザイン統一です。街路灯や、現在おこなわれている社会実験の「デジタルサイネージ」、シェアサイクル「でらチャリ」、「有料駐輪場」も全て同じデザイン。統一されたデザインは、利用者の視認性が上がり、街の景観調和と賑わいを生み、広告価値を高め、地域の方々の誇りとなり、プレイスブランディング（地区全体を総体としたブランド価値）を実現するのです。そして、今年度は、常設化に向けて計画が進んでいるのです。

PP



ISEMACHI PARKLET (イセマチ パークレット)